

（農村民泊を始める「山添村観光ボランティアの会」）

山辺郡山添村は、奈良県の北東部、三重県との県境に位置し、縄文時代からの長い歴史と伝統が息づき、大和高原から流れる清らかな水と豊かな自然に恵まれた村。昔から奈良と伊賀を結ぶ交通の要衝として栄えてきた。

「山添村観光ボランティアの会」は、村内の観光ボランティアガイドを育て、観光でむらづくりをしようと2006年2月に結成された。会員は現在35人で、観光マップの作成、山添村の自然や歴史の語り部を養成するなどの活動を行っている。

そのようななか、県の観光交流局が、同会へ「地域資源を活かした観光による内発的むらづくり」事業として滞在型観光を勧めたことから、農村民泊を始めることになった。

農村民泊は、「農村で楽しむゆとりのある休暇」を過ごしたい人々に、農村の家庭であるがままのもてなしによる交流を楽しんでもらい、宿泊や食事などを提供する。こうした試みは、日本各地で農村の人々がすでに取り組んでおり、大分県、鳥取県などで広がり静かなブームを呼びつつある。

山添村の見どころ

■歴史：縄文時代の石器（隆起線文土器）が発見されたことから村の歴史は12,000年前にさかのぼることができ、古代人が信仰したイワクラと呼ばれる巨石や巨石群が村中にある。

■芸能：地元の人たちが、室町時代の能、狂言、御殿万歳などを若者に伝承し、今も祭りの時に演じられているなど、日本のふるさとを思い出させるところである。

■自然：春先にこぶしの花、5月にはピンクの花をつけるミツバツツジが咲き、6月中旬は、蛍の乱舞がみられ、星空もきれいに見える。

ボランティアの会では、このような村の魅力を都会の人たちに宿泊をして楽しんでもらおうと、昨年9月、10月の二回、奈良県立大学の学生10人が村民宅へ宿泊する農村民泊のモニターツアーを実施した。

村の伝統行事や祭りに参加した大学生らは、「家族の一員になれたみたい。普段の生活では体験できないことができた」と、評判は上々。大学

生を受け入れた村民も「初めてでどうもてなしたらいいかと戸惑ったが、経験したら楽しかった」と手ごたえを感じていた。

その後、口コミで奈良、東京、神奈川、大阪など各地から観光・宿泊する人が訪れている。

今後、同会が様々な方法でPRし、農村民泊を本格化させることが、村の活性化につながるものと期待される。（上田）



大学生と村民との団欒風景



山添村北野 牛ヶ峰にある巨石



神野山のミツバツツジ（見頃：4月下旬～6月上旬）

（写真提供：山添村観光ボランティアの会）

問合せ先：山添村観光ボランティアの会
TEL：0743-85-0970

これからの主な催し

〔主な行事〕

● 3月1日（土）～3月31日（月）

高取町土佐街なみ「町家の雛めぐり」

午前10時～午後4時まで（展示されている各家により異なる）見学無料

高取町土佐街なみにある町家には、大切に雛人形が保存されている。各家の雛人形には家の思い出と願いが込められており、家の方がいろいろと説明して下さる。

展示場所：高取町土佐街なみ町家 50余か所、
夢創館、雛の里親館、壺阪寺（大講堂）

交通：近鉄吉野線 壺阪山駅 下車
駅前にマップ配置

問い合わせ先：観光案内所「夢創館」
TEL：0744-52-1150